

■木村(撰津守)芥舟 幕臣・軍政治家。咸臨丸司令官として、幕府海軍を主導するも崩壊、維新政府の招聘に応じなかった。
きむらかいしゅう 江戸の浜御殿役宅で、七代続く浜御殿奉行木村喜彦の長子に生まれる。母は船。幼名勘助。諱は喜毅。
富籤流行・・・1830＝

大塩平八郎乱1837＝7歳：
適塾ホヱン・1838＝8歳：築地で私塾開く和気柳齋について漢学・習字を習う。
蚕社の獄・・・1839＝9歳：

天保改革弾圧1842＝12歳：水野忠邦に仰せで、世襲の職に従い、浜御殿奉行見習として初出仕。徳川家慶の寵恩により、老中・若年寄・三奉行に列して將軍家の能舞への出席を許されるなど、若くして才能を囑望される。また、林家の大学頭に師事して学び、先輩の岩瀬忠震から目をかけられる。
天保改革終・1844＝14歳：両番格・浜御殿添奉行となり、
阿部正弘首座1845＝15歳：
1846＝16歳：姉久迺が桂川甫周に嫁ぎ、以後、甫周を通じて多くの人材と交遊、
・・・1848＝18歳：昌平黌乙科に及第。
北斎没・・・1849＝19歳：旗本の娘弥重と結婚。
国定忠治歿・1850＝20歳：長女が誕生。

ペリー来航・1853＝23歳：

安政大地震・1855＝25歳：姉久迺が死去。講武所創設で出仕後、*岩瀬忠震の強い推薦で、老中阿部正弘から西丸目付に抜擢され、
松下村塾・・・1856＝26歳：母が死去。さらに本丸目付に進み、長崎表御用取締を兼務して、長崎奉行の職務を監察。
蕃書調所・・・1857＝27歳：風紀が乱れていた長崎伝習所取締になると、長崎奉行岡部長常と協力して建直すとともに、生徒の住環境の改善・操艦技術の向上に寄与し、オランダ人教官らとも交流。

安政の大獄・1859＝29歳：従五位下・撰津守。*海軍伝習所の閉鎖に伴って帰府。大獄で同僚がいなくなったなか、目付に復帰し、軍艦奉行並。日米修好通商条約の批准のため遣米使節派遣するに当たり、軍艦奉行水野忠徳の建議で米艦を使用する正使新見正興一行とは別に咸臨丸を派遣することになり、その司令官として遣米副使を命じられ、軍艦奉行に任じられる。乗組士官を選考し、は甫周のところに出入りするようになって知合った福澤諭吉を従者に抜擢、通訳には中浜万次郎、頭角現した勝海舟を同乗させた上、航海の道案内と米側との連絡のため、海軍大尉ジョン・ブルックら米軍人乗艦を幕府に要請、反対する日本人乗組員を説得して認めさせ、

桜田門外変・1860＝30歳：次男が誕生。出航。ブルックと小野友五郎の働きで、サンフランシスコ着、日本人初の太平洋横断成功とされる。遅れて到着した正使一行と共に市民の熱烈な歓迎受け、品位ある外交官としても日米親善に大きな役割。正使一行と別れ帰国。見聞記「奉使米利堅紀行」。軍艦奉行に復帰し、幕府海軍創設を目指し活動。

遣欧使節・・・1861＝31歳：*海陸御備向、軍制取調を拝命、事実上の幕府海軍長官となり、軍艦組を創設。
生麦事件・・・1862＝32歳：次女が誕生。海軍組織の体裁を整え、初の国産蒸気式軍艦“千代田形”の建造を開始、併せてアメリカとオランダに軍艦計3隻を発注。榎本武揚ら9名の留学生をオランダに派遣。艦隊の配置や人材登用、西洋の軍隊を模した階級・俸給制度の導入など建議するも容れられず、

8月18日政変 1863＝33歳：失意の内に、辞職。
禁門の変・・・1864＝34歳：家督相続。開成所頭取就任後、目付に再任され、幕政に復帰。外国御用立合及び海陸備向掛となるが、
薩摩藩士密航1865＝35歳：州征伐のため上洛した際、兵庫開港問題を巡って老中小笠原長行と対立し、罷免される。
薩長同盟・・・1866＝36歳：三男駿吉が誕生。再び軍艦奉行並となり、小栗忠順・勝海舟らと共に海軍の組織整備を進め、
大政奉還・・・1867＝37歳：軍艦“千代田形”ようやく完成。軍艦奉行再任。近代海軍の基礎を確立、幕府崩壊とともに瓦解、
明治維新・・・1868＝38歳：*海軍所頭取就任。勘定奉行に進み幕府財政後始末、戊辰戦争では江戸城開城の事務処理を務めた後、幕閣を辞任。維新と共に身辺整理を行い、江戸を出てしばらく山奥の神官の下に身を寄せ、その実力を評価する新政府からの仕官の誘い全てを謝絶し、完全に隠居、芥舟と改名。

戊辰戦争終・1869＝39歳：父が死去。
廃藩置県・・・1871＝41歳：以後、親友の福澤諭吉と交遊、土地を用意するなど慶應義塾の面倒も見一方、福澤は、特に木村の次男浩吉に目をかけ、収入の無くなった木村家を援助し続ける。

明治6年政変 1873＝43歳：長女が結婚。
初の民間工場1875＝45歳：次男浩吉が海軍兵学校予科に入学。
明治14年政変1881＝51歳：思い立ったように著述を始め、漢文の随筆「菊窓偶筆」、
岩倉具視没・1883＝53歳：同じく「黄梁一夢」や、
秩父事件・・・1884＝54歳：
初の対等条約1888＝58歳：勝海舟から「海軍歴史」の編纂依頼、勝にとって都合悪いこと省かれていることも黙認。
帝国憲法発布1889＝59歳：

大本教・・・1892＝62歳：幕末外交の「三十年史」を、福澤の協力によって交詢社から私費で出版。
郡司千島探検1893＝63歳：腸チフスに罹る。
日清戦争始・1894＝64歳：

八幡製鉄始・1897＝67歳：「木村芥舟翁履歴略記」をまとめる。以後、この年創刊された雑誌{旧幕府}の編集を支援し、幕府記録の整理に努めながら、詩文を読む生活を送り、

田中正造直訴1901＝71歳：福澤が死去。{時事新報}に「福澤先生を憶う」という切々たる長文を寄せ、後を追うように、没した。贈正五位。幕末の幕閣で明治以後に位階勲等を受けた者は木村、川路聖謨、岩瀬忠震、池田長発の4名だけである。日誌『備忘小録』の記録も残っている。